



カトリック札幌司教区

札幌カリタス通信

March, 2015 No. 16



＝ 3・11丸4年を迎えての追悼・復興祈願ミサ＝

3・11から丸4年を迎えて

2015年3月11日（水）午後2時からカトリック北一条教会で東日本大震災犠牲者の追悼と復興を祈るミサが、約150名の信徒・修道者が参加して、札幌教区長のベルナルド勝谷太治司教の司式で行われた。

丸4年を経過し、ボランティア数も激減し、マスコミでの取り上げ方も風化現象が起こっていないか懸念されている。復興庁の発表によると、2014年9月30日現在で、その後の震災関連死者数は3,194人、避難者は23万3,512人に上ると言う。しかし、実数はこれより多い人々が震災関連で亡くなっていることだろうし、原発事故の関係での避難している人々はこれから何十年も長く非難が続いていく事だろう。私たちは、物理的な復興が進んでいく中で、未来に希望を持たせる報道に触れることが多くなってくるだろうが、数字だけを追って理解するのではなく、一つ一つにそれぞれ重い人生があることをこれからも忘れてはならない。

カトリック教会の日本司教団は、これからも現地の人々が必要としている限り寄り添い、全国で一丸となって支援していこうと決めています。札幌カリタスも、これからのような支援ができるかを考えて寄り添っていきたいと思う。

・・・・・・・・ 目 次 ・・・・・・・・

1. 東日本大震災復興支援の2014年一年間の動き ①－④
2. 札幌カリタス運営委員会の報告 ⑤
3. 2014年度援助金交付内容と交付団体の活動状況 ⑥
4. 2013年度献金者名簿 ⑨

2014年一年間の東日本大震災復興支援に関する報告

■札幌カリタス宮古ベースの一年間の主な動き■

※活動の詳細は札幌教区 Web ページをご覧ください。

◆2014年一年間の仮設住宅での移動カフェ開催数・・・327回

あゆみ公園 = 20回 西ヶ丘 = 18回 荷竹 = 18回 板屋 = 18回 実田 = 17回
清寿荘 = 15回 児童相談所 = 15回 高浜 = 14回 田鎖 = 14回 浄土ヶ浜 = 14回
2中 = 13回 崎山 = 13回 鍬ヶ崎 = 13回 赤前 = 13回 河南 = 13回
きれまち = 12回 なかよし公園 = 12回 愛宕小 = 12回 中里 = 11回
藤原 = 11回 近内 = 10回 白浜 = 8回 上村 = 8回 藤畑 = 6回
わかば公園 = 6回 千鶏 = 3回

◆宮古ベースのボランティア数・・・宮古ベースの週間報告による

1年間で、1週間ごとの延べ人数〔一人が約1週間参加して1人と計算〕で228人の方にボランティアとして参加して頂きました。

◆一年間の主な動き

◇2014年1月

- ・1月6日（月）から宮古ベースの活動が始まり、7日（火）から移動カフェの活動を開始し七草粥を食べて新年のスタートをきりました
- ・健康談義と、復興住宅の募集も本格的となり、場所や入居費用などの話題が皆さんから聞かれました
- ・移動カフェの昼食時に札幌ラーメンを作って召し上がっていただきとても喜ばれました
- ・「いつまでこの活動を続けてくれるのか？続けてきてほしい。」などのお話が聞かれ始めました
- ・ある仮設では、手芸が盛んに行われていて、作品のお披露目もあり、それぞれの事情で離れていた人達の出会うきっかけとなり感謝していると話していた自治会長さんもいらっしゃいました
- ・足湯を行いながら、皆さんのお話をゆっくりと聞くことができました

◇2014年2月

- ・吹雪となり、福岡からの高校生ボランティアは、降雪のため仙台空港に着陸できずに新千歳空港へ。ボランティア活動が出来ずに残念がっていました
- ・2月は、降雪のため、急きょ移動カフェが休止となったこともありました
- ・皆さんが駐車場の除雪や、事前に集会所を温めてくれたりと、皆さんの心遣いに感謝です
- ・大分教区から宮古教会に派遣されている川口神父様が移動カフェに同行し、皆さんと話が弾んでいました
- ・鹿児島大学教授と西日本新聞記者による仮設住宅の聞き取り調査が行われ、改めて、これからどう関わっていったら良いか自問する機会となりました
- ・国道をひっきりなしにダンプカーやトラックが行きかっています。コンクリートの塊を乗せているトレーラーも毎朝すれ違います。ハード面の復興の進んでいる足跡でしょうか

◇2014年 3 月

- ・ 3月11日震災後丸3年を迎えるにあたり、新聞やテレビで被災地を取り上げる頻度が増えてきました。地元紙では「生きる 語り継ぐ」という大きな見出しの記事で取り上げられる
- ・ 3月11日、宮古教会で平賀司教様司式による犠牲者追悼と復興祈願のミサが行われた

◇2014年 4 月

- ・ 宮古ベース世話人の輪番制がスタートして丸一年を迎えました。皆様の協力に心から感謝です
- ・ 仮設住宅の一部撤去が始まりました。入居当初は釘を打ってはいけないなどの制限が多かったが、撤去は壊すに等しい解体作業との事でした
- ・ 春を迎えて、山菜や桜の便りを話題にし心も和んできましたが、市の復興支援住宅への入居条件に、60歳以下で一定の収入があり市内在住の保証人が必要とされることや、家賃が思いのほか高いなど不安の声が聞かれました
- ・ 三陸鉄道の北リアス線が全線開通
- ・ 5月完成予定の宮古漁協の冷凍施設が全焼。被害額は11億円と言われ復興への影響が心配されました
- ・ いも団子や素甘、手作りケーキ、手打ちそばなどを皆さんに食べて頂いた。ゆっくり話を伺うことができました

◇2014年 5 月

- ・ 足湯のサービスが大好評。エプロンやクラフト作品作りが活発に行われていました
- ・ 5月9日から行われる展示会に出品する準備で、各仮設は準備に大忙しでした
- ・ 盛岡の教会からボランティアに参加して頂き、自分で打ったそばを皆さんに振舞って頂きました
- ・ いつも来ていた子どもが幼稚園に入り、移動カフェに来なくなってさびしくなった仮設もありました
- ・ 復興支援住宅への入居申し込み期限である5月31日が迫り、申し込みはしたが、それはそれで不安を抱えている様子でした
- ・ 自治体では、職員の疲弊、入札の不調、復興公営住宅は出来たがうまらない入居者、土地区画整理事業への反対、巨大な復興計画と人口減少の現実など問題が山積で、復興の難しさを実感させられました

◇2014年 6 月

- ・ 仮設住宅の使用期限が2015年10月まで延長になりました
- ・ 6月7～8日には、中央商店街で宮古復興まつりが開催し、生憎の雨模様となりましたが約150店舗が参加
- ・ さおり織は継続して行われており、宮古復興まつりへの出品するため作品作りに熱中されていました
- ・ 釜石ベースのオープンハウスには、宮古をはじめ近隣の大槌ベース、大船渡ベースからも手伝いにかけてきました
- ・ 連日の雨と低温で来店されるか心配な日もありますが、いつものように来店して頂き、整体ストレッチなどを受けて、身も心もスッキリされたようです
- ・ 復興公営住宅の申し込みが終了し、定員に満たないところから3倍の競争率のところもありました。希望のところに入居できるかなど皆さん心配が続いています
- ・ 手芸品作成に勤しんでいる仮設では、札幌でのバザー用に作品をお願いしましたところ、快く受けて頂きました

- ・仮設住宅の入居期間が4年から5年に延期。延期は3回目との報道がなされていました
- ・6月24日の午前中は、宮古教会での第4回東日本大震災復興支援全国担当者会議の出発式に参加し、移動カフェは午後からの出店でした

◇2014年7月

- ・宿泊施設の玄関前の雨水対策を実施し、雨天時の出入りも改善されました
- ・雨の中、隣の仮設からいらっしゃった方は、浸水した土地を買い上げられたが、お金を返してでも元の土地に戻りたいと言った心情や、仮設住宅に入った当初にうつ状態になったことなどを話されていました
- ・仮設の近くに家を建てられて引越されている方の嬉しそうな顔が思い浮かべられます
- ・盛岡から漬物や黒豆、ようかん、有名なコッペパンを持参でボランティアに来ていただきました
- ・2名の若い警察官が立ち寄り「宮古の安全は私たちに任せて下さい」と頼もしい一言頂きました
- ・足湯とジンギスカンの昼食に皆さんをお誘いする。リラックスして頂き会話も弾んだ様子でした

◇2014年8月

- ・暑い日が続いて、さらにアイスコーヒーやかき氷の注文が多くなりました。また、ズメバチへの注意喚起が伝えられました
- ・宮古教会の修繕工事が9月上旬の完成を目的に開始されました
- ・お盆の間は活動を控え、帰省された方々の泊まる部屋に集会場が提供されたりするため18日（月）から移動カフェを実施
- ・大学の夏休みに入り、下旬から学生がボランティアに参加。住民の方々は元気ももらったと喜んでいました
- ・北海道からのボランティア派遣が空白の日は、宮古教会の信徒の方に協力頂きました。心から感謝です。
- ・頂いた素材を使ったお昼の提供は、「いつも一人で食べているので、とてもうれしく美味しかった」との言葉を頂きました

◇2014年9月

- ・9月7日（日）には第19回宮古わくわく（和来輪来）まつりが開催される。例年のように札幌カリタスはジンギスカンを提供しましたが、盛岡の志家教会や宮古教会の信徒の方々のお手伝いを頂き1時には200食を完売しました。ご協力に感謝いたします
- ・話も聞こえないほど強い雨が降り、皆さん変えることも出来ずにテントの下で雨が止むのをまっけていらっしゃいました
- ・巡回中の警察官3名を含めて皆さんで、送って頂いた新じゃがいもを昼代わりに頂きました
- ・2ヶ月ぶりに訪れた世話人は、宮古の変わりように少々驚いたとの事。区画整理が始まり、道路がつけ変わったり、新たな生コンのプラントが出来たりと復興の歩みを感じたそうです
- ・一年前に仮設を出て借家住まいしている方が一番乗り。一人での寂しさを訴えられて、何かある度に仮設に来ているとの事です

◇2014年10月

- ・10月6～8日の三日間は奏楽（そら）の演奏会。台風18号の影響の中で、宮古教会・白浜集会室・花輪小学校・山田町間木戸仮設で演奏は行われました。奏楽の皆さんに感謝です

- ・台風18号に続いて台風19号も襲来。あゆみ公園仮設での移動カフェが急遽中止となりました
- ・足湯が盛況で、多くの方々が寛いでいらっしゃいました
- ・沈んでいらっしゃる方に話を伺ったら、復興公営住宅の抽選に2回も落選しているとのこと
- ・到着時間が早めの時にも、町内会の方には快く対応して頂き感謝です

◇2014年11月

- ・11月8日は社協主催のボランティア団体、個人による情報交換会が行われました
- ・さをり織りを使って、宮古市のゆるキャラ「サーモン君とミヤコちゃん」のぬいぐるみを作っている仮設がありました。これを販売する許可を得られたので、他の仮設にも広げて継続していきたいと話されていました
- ・仙台教区サポートセンターの小松神父様と長嶋さんが来訪し、子どもへの支援活動の可能性について情報収集されていきました
- ・復興住宅の建設が進み、仮設住宅を出た後の生活の話題が多くなりました
- ・全国のカトリック教会から、冬に向けた支援の品々（靴下、帽子、ひざ掛け、チャンチャンコなど）が届き、カトリック教会の繋がりと広がりを感じました
- ・皆さんから頂いた支援の品々を仮設訪問時に提供し、とても喜ばれました
- ・同時に、物資で支援するだけでなく、自立生活に向かう手助けをすることが大切な時期になったとの意見が出され始めました

◇2014年12月

- ・上旬には、外でのカフェがいよいよ終了
- ・復興公営住宅に移られた方も移動カフェに見えられて旧交を温めていらっしゃいました
- ・寒さが続き、日常利用されていない仮設の集会所は温まるまで時間がかかりました。昼ごろになって温まることもありました
- ・あちらこちらで新巻鮭の天日干しが目に入るようになり、年の瀬を感じられました
- ・駅前や街中は電飾が光り、すっかりクリスマスモード
- ・12月21～24日にかけて、降誕祭を迎えるにあたって、ささやかなクリスマスプレゼントを仮設住宅の各戸に届け、良いクリスマスになるようにと祈りました
- ・12月25日のクリスマスに、今年最後の移動カフェを午後からあゆみ公園仮設で行いました

■2014年12月31日現在の東日本大震災支援募金収支報告

収入の部

支援募金収入	= 61,667,216円
受取子息収入	= 11,508円
計	61,678,724円

収入の部

ボランティア活動費支出	= 16,636,851円	(ボランティア交通費補助、活動保険、宿泊所管理費等)
支援物資購入搬送費支出	= 11,182,817円	(毛布、断熱材、暖房器、食料品等)
移動カフェ活動費支出	= 1,350,118円	(飲み物、食べ物、消耗品など)
活動助成費支出	= 4,831,979円	(コンサート、自治会、むすびば、Earth 宮古等)
ベース宿泊施設購入費支出	= 5,330,450円	
後方支援広報等経費支出	= 476,591円	
計	39,808,806円	
収支差額(繰越金)	21,868,918円	

■札幌カリタス運営委員会の報告

キリストの愛を証ししその愛を告げ知らせるために、皆様のご協力を頂きながら札幌カリタスの活動は行われています。これからも、神様のみ心を信じてキリストの愛を証しする活動を行っていききたいと思います。

2013年活動報告と決算報告、2014年度活動計画、援助金交付内容を報告させていただきます。今後とも、皆様の変わらぬご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

主の恵みが皆さんの上にありますように。

1. 2013年度活動報告

2011年4月11日から東日本大震災被災地である宮古市へのボランティア派遣を続けてきましたが、2013年度も札幌カリタスは、被災地の方々が必要としている限りボランティアを派遣し続けることを決意して、東日本大震災の復興支援を中心に活動してまいりました。また、北海道内で福祉活動を行っている諸団体への資金援助も従前通り行いました。

2. 2013年度一般会計決算報告

2013年4月1日～2014年3月31日（単位：円）

収入の部			
科目	予算額	決算額	差額
寄付金収入	1,800,000	1,636,956	163,044
利息	1,000	2,434	△ 1,434
積立取崩金収入	0	0	0
前年度繰越金	2,600,000	2,708,717	△108,717
合計	4,401,000	4,348,107	52,893
支出の部			
科目	予算額	決算額	差額
諸団体援助金支出	1,450,000	1,450,000	0
広報費支出	100,000	94,500	5,500
行事費	100,000	0	100,000
旅費交通費	10,000	0	10,000
事務経費支出	70,000	64,155	5,845
援助積立金繰入支出	0	988	△ 988
予備費	100,000	0	100,000
次年度繰越金	2,571,000	2,738,464	△167,464
合計	4,401,000	4,348,107	52,893

3. 2014年度活動計画

2014年度以降も被災地の方々が必要としている限り、日本のカトリック教会として All Japan で取り組んでいく考えであります。そのため、東日本大震災復興支援募金を継続して募ります。また、北海道内で福祉活動を行っている諸団体への資金援助、「カトリック福祉施設の集い」や「社会福祉シンポジウム」も計画し、札幌カリタス通信16号の発行、札幌カリタスの日献金も従前通り行ってまいります。運営委員会を年2回、援助審査会を年1回開催して札幌カリタスを運営していきます。

4. 2014年度一般会計予算

2014年4月1日～2015年3月31日（単位：円）

収入の部			
科目	2014年度予算	2013年度予算	増減額
寄付収入	1,800,000	1,800,000	0
利息	1,000	1,000	0
前年度繰越金	2,738,464	2,600,000	138,464
合計	4,539,464	4,401,000	138,464
支出の部			
科目	2014年度予算	2013年度予算	増減額
諸団体援助金支出	1,500,000	1,450,000	50,000
広報費支出	100,000	100,000	0
行事費	230,000	100,000	130,000
旅費交通費	10,000	10,000	0
事務経費支出	70,000	70,000	0
援助積立繰入支出	0	0	0
予備費	100,000	100,000	0
次年度繰越金	2,529,464	2,571,000	△41,536
合計	4,539,464	4,401,000	138,464

5. 新運営委員

最高顧問 勝谷太治司教 運営委員長 上杉昌弘神父
運営委員 Sr.永田淑子 堤邑江 今野渉 南楨子 和田真一 佐藤秀雄（事務局）

6. 2014年度援助金交付額

①NPO法人ニムビン	150,000円
②NPO法人札幌マック	300,000円
NPO法人札幌マック女性作業所	上記に含む
③NPO法人北海道ダルク	150,000円
④NPO法人とがちダルク	300,000円
⑤NPO法人寧楽共働学舎	300,000円
⑥NPO法人自立支援事業所ベトサダ	300,000円
計	1,500,000円

7. 2014年度の援助金交付内容

- ①NPO法人ニムビン・・・障害者の社会の受け入れ先として、通所者の精神面・生活面での自立支援を行っています。
就労支援「喫茶ルーム」と事務所の備品の購入費用を援助しました。
- ②NPO法人札幌マック・・・アルコール・薬物依存者の回復と社会復帰のための自立支援を行っています。
男性作業所には、事務所2階の建具改修工事の費用を援助しました。
女性作業所には、作業所のパンフレット作成費の援助を行いました。

- ③ N P O 法人北海道ダルク・・・薬物依存者の回復を支援する専門のリハビリを行っています。薬物依存症の現状と回復のメッセージを伝え、市民に広めるためのフォーラムの開催費用を援助しました。
- ④ N P O 法人とかちダルク・・・薬物依存者の回復を支援する専門のリハビリを行っています。十勝地区での薬物乱用防止セミナー及び研修会開催費用の援助を行いました。
- ⑤ N P O 寧楽共働学舎・・・心身に様々な障害や問題を持つ人や、そうした人々と共に生きようとする人たちが、共に自立するための共同生活を送っています。
自労自活のためのソーセージ作りに使用するフードミキサーが故障したので、代替製品の購入費用を援助しました。
- ⑥ N P O 法人自立支援事業所ベトサダ・・・ホームレスの方々を路上生活から保護し、仮宿舎を無償で提供して社会復帰（自立）に向かっての支援事業（生活・医療・就職活動など）を行っています。
入所者のボランティア活動に対する就労支援作業に係る事業経費への援助を行いました。

■カトリック福祉施設の集い

2014年10月16日に北海道内のカトリック福祉施設の理事長や施設長、札幌カリタス運営委員18名が参加して7回目の集いが行われた。

集いの前半は、カトリック施設の役割について、勝谷太治司教から講演頂いた。勝谷司教は聖書のみ言葉引用し、イエスが病気の癒しを行ったのは神への復帰が大切であることを教えるためであり、イエスはそれを使徒に託した。それが教会の始まりであり、キリストの使命を実現していく事が教会の使命であると語られ、神は苦しむ人といつも共にいて、社会福祉活動はみ言葉が示す通り、教会の本質的な使命に属する活動であると語った。



集いの後半は、各々の施設の情報や諸問題を分かち合い、イエスの使命を実現できるよう願って終了した。

■社会福祉シンポジウム NPO 法人マザーハウス代表五十嵐氏の講演を開催

2014年9月20日北11条教会を会場にして、社会福祉シンポジウムとして、マザーハウス代表の五十嵐弘志氏の実体験を聴く講演会を行った。



マザーハウスは、刑務所や拘置所などに収容されている人と、社会にいる人々を文通で結び、心と心の触れ合いを行いながら、受刑者の更生改善等のサポートする「マザーハウス・ラブレター・プロジェクト (MLP)」を行っています。

■円ブリオ北海道20周年記念講演会を後援

6月29日（日）道新ホールで、乙武洋匡氏（作家）を迎えて「みんなちがって、みんないい」（金子みすずの詩の一節から）と題して講演会を行った。

エンブリオとは8週までの胎児と言う意味で、一つの人格を持つエンブリオを守るために、鈴木健二アナウンサーの提唱で「エンと円」を絡ませ円ブリオ基金がスタート。

円ブリオ北海道の堤邑江代表から20周年を迎え皆様の協力で謝辞を宣べ、来賓を代表してSr.永田淑子理事長からお祝いの言葉が述べられた。

円ブリオの活動が映像で紹介された後に乙武氏の講演が始まった。

乙武氏の講演は、軽妙な語りで来場者を引き付けながら、1998年に「五体不満足」を書いてから16年がたって、今は結婚して6歳と4歳の2児の父親となっている。兄弟は同じ環境で同じ思いで育てているのに違って育ってしまうこと、子供は自分が出来ないことを手助けしてくれたり、奥さんは、自分にはないものをそのまま受け入れてくれているので、自分らしく生活できることに感謝している。少しも不幸せと思ったことがなかったが、子供ができて、その子が危険な時に、抱き上げてやれなかった自分に初めて悔やんだと言う。

また、3年間と言う期限付きで教師になった時を振り返り、低学年はストレートに疑問を聞いてくれるので助かったこと。高学年になると一変して遠慮してくると言う。高学年の子が「先生の靴のサイズ幾つ」と聞いてきたときチャンスと思ったと言う。子供たちが指さしたり、気持ち悪いと思うのは、差別や偏見とは思ってなくて、なれてなくて素直なだけととらえている。身近な友達は、自分を健常者と同じと思ってしまう。ETは映画で認知されているからかわいいのであって、慣れることが重要という。近所に引越してきた黒人や仕事場のイスラム教の人には最初は戸惑うが、2～3ヶ月すると慣れてくる。慣れることが理解することの近道のような気がする。教師の時、クラスをジグソーパズルのようにしたかったと言う。ジグソーパズルはいろんな形のパズルを組み合わせると美しい絵になる。一人ひとり完璧になる必要はなく、補い合い助け合えば素敵なクラスになるだろうと考えたのである。これは、家庭、職場、日本、国際社会でも同じことで、国同士が足りない分野で助け合える。

得意な分野があって当たり前。苦手なことがあって当たり前。68億分の1が自分だが、かけがえのない1である。もっと多くの人に伝えたいと思い、であったミュージシャンに67億分の1と言う詩を書いて歌になった。出生前診断が始まり、障がいを持っていることが分かった場合、悩んだ末に97%の人が中絶している。

でも、障がいを持った子を産める世の中にしたい。私はこんな体で生まれてきても幸せです。これからも不満足な身体でもかけがえのない一人。目の前の一人を大切に生き方ができる世の中にしたいし、そう生きてほしいし、これからもそう生きたいと思う。父親はいつも「愛しているぜ」と声をかけてくれた。私は、両親に生まれた「自己肯定感」を持っているのだと思う。分野的にはいろんなことをしたが、人にメッセージを伝えるという一つのことしかしていないと思う。これからもメッセージを伝えていきたいと結ばれた。

■小教区の皆様と共に

カリタス家庭支援センター 代表 堤 邑江

カリタス家庭支援センターは2014年5月開設10周年を迎え、感謝の集い、記念誌の発行、記念クリスマスコンサート等々、皆様と共に過ごすことができましたことを心から感謝致します。

この10年間、小教区の皆様からも当センターをご紹介いただき、信徒の皆様と共に歩んで来ております。

「生きづらさを抱えた本人が、その人らしく生きていけるように、共に寄り添う」ことを大切にしてきました。

新年度から、各教会を訪問させて頂き、状況を教えて頂きながら、さらにきめ細かい関わりを持ちたいと思っております。よろしくお願い致します。

■札幌カリタスへの献金者名簿

(2013.4~2014.3) 敬称略

※皆様のご協力に心より感謝申し上げます。

◇教会

岩見沢、恵庭、江別、大麻、北11条、北11条マリア会、北26条、北広島、倶知安、小野幌、新田、住ノ江、月寒、手稲、富岡、花川、真駒内、円山、山鼻、旭川5条、旭川6条、大町、枝幸、神居、砂川、名寄、羽幌、美唄、富良野、留萌、稚内、利尻、当別、宮前町、八雲、湯川、帯広、柏林台、苫小牧、静内、伊達、登別、東室蘭、室蘭、北見地区、北見、遠軽、美幌

◇修道会、在俗会

殉教者聖ゲオルギオのフランシスコ修道会、殉教者聖ゲオルギオのフランシスコ修道会函館マリア院、マリアの宣教者フランシスコ修道会札幌修道院、マリアの宣教者フランシスコ修道会北広島修道院、ベネディクト女子修道院、十勝カルメル会、トラピスト修道院、トラピスチヌ修道院、聖心会、マリア会光星修道院、聖マリア在俗会、洗足カルメル会在世会北海道共同体

◇団体、個人、外

函館カリタスの園旭ヶ岡の家、株式会社エイエックス、阿部喜代子、武宮和子、野村幸代

■ 札幌カリタスへの献金 振込口座 ■

郵便振替口座番号 02740-8-35329

口座名 札幌カリタス

※ 被災地への支援募金の場合は、通信欄に「大震災支援募金」と明記下さい

■ 編集後記 ■

皆様のご支援・ご協力により、東日本大震災の支援活動などを、微力ではありますが有意義に行うことができました。心より感謝申し上げます。

宮古での支援活動も4月からは5年目に入ります。復興公営住宅などへの移転が進み、仮設住宅の自治会などが解散となったり、コミュニティーの中心部分が欠けてきています。このような時だからこそ札幌カリタスの活動が重要になってきます。皆様のご支援・ご協力に支えられながら2015年度も活動を行ってまいりたいと思っておりますので宜しくお願いします。

宗教学人 カトリック札幌司教区

札幌カリタス

〒060-0031 札幌市中央区北1条東6丁目10 カトリック札幌司教館

Tel 011-241-2785 Fax 011-221-3668

E-mail : officecsd@csd.or.jp <http://www.csd.or.jp/charitas/>